



巡礼その二十四 カンボジア 4

2004年12月26日

5時悪夢で目覚める、5時40分タクシーで新宿へ。成田は結構混んでいる。朝食は牛丼、妻はテンプラそばを食べる。10時発のベトナム航空でホーチミンへ。となりの席はベトナム難民のおじさんで14年ぶりに故郷へ帰るそうだ。スパイダーマン2を見ておじさんと話をする。おじさんは追浜や久里浜の自動車学校で働いていたそうだ。タンソンニャット空港でシェムリアップ行きに乗り換えるのだがこれが大変なことになっていた。ベトナム空港のカウンターが長蛇の列でそこでチケットをもらって次に税関みたいな所でチケットとパスポートを見せスタンプをもらう。ここもすごい長蛇の列である。私がチケットをもらう間に妻が税関に並ぶ。これは大成功であったが、なんと私たちの一つ前の便がまだ出ていないので結局待たされた。シェムリアップ空港はこれがまたすごい人で建物の中に入りきれなかった。なんとか税関を出てめぐみさんに会う。空港からホテルまでものすごい近代化である。こんなにしてインフラの整備は大丈夫なのか心配である。ホテルはDAY IN ANGKOR RESORTで町中にあるが少し奥に入っているので静かである。出来てまだ1年なのでとても綺麗である。夕食はホテルのそばのタイスキ屋でブタの内蔵、心臓、レバー、揚げボール、3種類の葉、白菜、舞茸、フクロタケ、を食べ最後に中華麺を入れる。デザートはココナッツアイスクリームで14ドルであった。帰りにスーパーでミネラルウォーターを買う。

12月27日

6時起床、7時朝食、buffetでミックスオムレツ（絶品）、ポテト、パンケーキ、パパイア、ザボンを食べる。8時30 ガイドのポーキーが来る。今日は是非行きたかったPHNOM KURENである。新しい道を通ってプラサットクラバン、スラスラン、バンティアイサムレからバンティアイスレイ方面に行く。さらにプノンボックの方に30分ぐらい行くと料金所がある。ここからすごい凸凹

道を 40 分ぐらい走ると川がありプレアントムの村である。車が入れるのはここまでで、ここからはバイクタクシーになる。ここには立派な寺院と出店があり、人々の憩いの場所である。バイクの後ろにまたがり遺跡を回る。とても細い砂や砂岩の道で至る所から湧き水があり、ぬかるんで走りにくい。水たまりが大きいとバイクを降りなくてはならない。遺跡の中でも THMADAP は保存状態も良く楣などの彫刻も素晴らしい。所々草が生い茂って道が無くなる。また大きな水溜まりがあり、バイクを降りようとしたら後ろで、ギャーと言う叫び声が聞こえた。振り返ると妻が降りようとして肩から落ちた。幸い打撲だけだった。DAMREI KRAP は崩壊がひどく 3 塔のうち中央だけがかろうじて残っている。お昼は山の中なので食堂などは無く、村にあるバイク屋兼よろずやのような所でベトナム製のインスタントラーメンを食べる。私たちは 1 個であるが、皆は 3 個食べる。それもお砂糖 4 杯と味の素をかけてお湯をそそぐ。また生のタマリンドを塩と唐辛子につけて食べた。その後 OPHAONG を見学し、バイクを降りて砂岩の洞窟を見に行く。内部には神々の彫刻があった。プレアントムの村に戻り、寺院の寝釈迦仏を見学し、川底に彫刻されたリングアやアナンタ龍の上に横たわるヴィシュヌの彫刻を写す。ここにも 13 世紀の寺院跡がある。シエムリアップの町に戻り、「隠れた娘」と言う食堂で鹿の一口ステーキとブタの内蔵の煮込み、魚のスープを食べる。もうくたくたでホテルに戻りすぐ寝るがポーキーがいつもアッパニヤハー（大丈夫）、モイモイ（ゆっくり）ばかり言うので耳にこびりついた。

12 月 28 日

6 時起床、6 時 30 分朝食、オムレツ、クイティユ、フランスパンを食べる。8 時出発。まずアンコール遺跡のパスチケットを購入しに行くが、ものすごい観光バスの数である。PRASAT KRAVAN へ行く。ポーキーはどこに何があるか、どこから写すと良いか知っているので大変助かる。VAT CHUM は初めての寺院で修復中であつた。楣をはずし刷毛で綺麗にしている。PRE RUP は早くも観光客が大勢来ている。すぐそばの PRASAT LEAK NEAN はレンガの祠堂が残っているが保存状態はあまり良くない。沐浴場もある。次に BENGMEAREA へ行く。新しく出来た道は快適で 80km で走れる。1 時間ほどで着き、まず PRASAT CHREI へ行く。4 WD でもやっと通れる道に入って探すが場所が解らず、地元の夫婦を乗せて案内してもらう。車を降りてジャングルの中をついて行くとラテライトの周壁がなんとか解る。ポーキーが枝を払い

ながら進む何とか祠堂の跡らしきものが解る。もう一つの PRASAT KON
PHLUKはさらに先にあるが崩壊しておりジャングルに埋もれて全く解らない。
BENGMEAREA に戻り前の食堂でタマネギと豚肉を炒めた定食を食べる。
BENGMEAREA は大きな寺院でまだ修復が始まったばかりで瓦礫の山状態
である。この足場の悪い瓦礫伝いに廃墟の中を見学する。時々楣が埋もれており
ガルダに乗るヴィシュヌや乳海攪拌などが見つかる。ここから ROLUOS へ行
くがとてもひどい道で苦行であるが国道6号線からはとても良い道になりて天
国である。PRASAT TRAPEANGPONG を目指す。畑の中を突き進むと小さな
村がありそこから水田の中を歩く。すると遠くに祠堂が見えてくる。現在ドイ
ツが修復しているらしいがこのままでは崩壊してしまう。デヴァターが落ちな
いようにテープでとめてあるのが痛々しい。小さな水溜まりがありポーキーが
手ですくうとなんとドジョウ、ナマズ、フナ、ハゼ、エビなどがうじゃうじゃ
捕れる。カンボジアおそろしである。米とこの魚とバナナがあれば生きて行け
る。PRASAT PREIMONTI も車から降りて15分ほど歩くが日陰の道なので暑
くない。崩壊がひどい祠堂が3つあり、珍しい薬草湯を入れる石棺？があり周
囲は彫刻されている。BAKONG へ行くがだんだん暗くなってきたので LOLEI
と PREA KO はあきらめてシムレアップに戻り美人姉妹がやっているアンコ
ールレストランへ行く。酢豚とカンボジア風オムレツ、焼きなす、魚と空芯菜
のスープを食べる。ホテルに戻り寝る。

12月29日

6時起床、6時30分朝食、お粥、オムレツ、クロワッサンを食べる。まず
KUTISVARA へ行く。畑の中にありほとんど崩壊寸前であるが地面にブラフマ
ーと乳海攪拌の楣が置いてある。PRASAT TOP へ行くが解らず、あきらめて東
メボンへ行く。次に KBAL SPEAN に行く途中 BANTEAY SREI の前を通るが
すごい人である。ここまでは道が良いが、ここからものすごい悪路で45分間我
慢する。やっと駐車場に着き車を降りて40分間急な登りが続く。日本人とフラ
ンス人が多い。途中でフランス人のおばあさんが腰を強く打って倒れており、
大変な騒ぎになっている。今は乾期なので流れは緩やかで細いため、川底のリ
ンガやアナタ龍の上に横たわるヴィシュヌが部分的にひえあがっている。ホ
テルからゴム草履を持ってきているので皆で川の中に入り遊ぶ。麓の駐車場へ
戻り昼食を食べる。チキン炒めライスを食べる。お店の人がパイヤをくれる。
外ではなんとさっきのフランス人のおばあさんをここまで降ろしてきて、これ

からヘリコプターでシェムリアップの病院まで運ぶ所である。また悪路を何とか我慢し BANTEAY SREI にたどり着く。すごい人で中央の祠堂にはロープが張ってあり近づけないようにしてある。BANTEAY SAMURE には近道をして貯水池の横を通って行く。ここは一の瀬泰造が殺された所である。BANTEAY SAMURE は二回目であるが興味深い彫刻が多く楽しいが疲れる。妻は子供達に取り囲まれキャンディーを配って人気者になる。もう疲れてぼろぼろであるが時間があるので BANTEAY KUDEI へ行く。ガイドのポーキーも相当疲れているのか3回もけつまずく。石澤教授がツアー客に説明していた。ふらふらになりながらホテルに戻る。今日はメグミさんと夕食の約束をしてある。7時に迎えにきてバンティアイスレイレストランへ行き御馳走になる。プラホック、青いマンゴーのサラダ、焼き鳥、空芯菜と干し魚のスープを食べる。メグミさんの離婚の話で盛り上がる。ポーキーもくる予定であったが疲れて動けなくなったそうだ。こんなことはガイドになって初めてだと言っていた。ホテルに戻り無料ドリンク券でアイスティーを飲み寝る。

12月30日

6時起床、6時30分朝食、トースト、目玉焼き、お粥を食べる。まず BAKSEI CHAMKRONG へ行く。アンコールワットはすごい人だがここは誰もいない。奥にある PRASAT BEI と THMABAY KEAK へ行く。この3つの寺院はプノンバケンのすぐ下にありバケンと関係がありそうだ。BANTEAY TOM はシェムリアップの一番北にあって道は悪い。車は通れない橋がありそこから灌木の中を15分ぐらい歩くとラテライトの壁が見えてくる。二重の周壁を持つ立派な仏教寺院である。次は PREAH KHAN で西から入る。とても好きな寺院で1時間以上いた。東参道まで歩いて行くと、その奥は池になっているがここにベニヤの大きな舞台とテーブルクロスが掛かったテーブルが沢山ある。何かと思ったらグランドホテルの初日の出ツアーでこの池から出る初日の出を見ながら、シャンパンと朝食を食べる。なんと135ドルである。ニアックポアンの前の食堂でブタの生姜焼きライス、妻はブタと青菜の炒め物を食べた。ビールを飲んだら12ドルも取られた。ポーキーもおこっていた。BANTEAY PREI と PRASAT PREI を見学する。特に記すことがない寺院である。TA NEI は勝利の門を出て左へ細い道をどんどん進むとダムにぶつかり道が無くなる。車を降りて橋を渡る。結構高く川の流れも早い。まわりはジャングルで日中でも薄暗くスポアンが沢山生えている。破風の彫刻は面白い。とても静かで独特の雰囲気のある寺

院である。王宮跡に行く。PRASAT TOP は5分ぐらい歩いた森の中にあり、ほとんど崩壊している。ヴァーマナの楣がある。PREAH PITHU は5つの建物からなるグループでとても見応えがある。以前に来た時はテラスの前は木々が生い茂り全く中へ入れなかった。そんな時にガイドのおじさんは鉋で道を切り開き、483X と呼ばれる建物まで案内してくれた。ジャングルの中、やっと階段を見つけ建物に入ったら、薄暗い中、壁一面仏の彫刻でかこまれ驚いたことを思い出す。かなり疲れ、へろへろになる。南北の KHLEANG を見学し、象のテラスから王宮に入る。男池と女池を見学しその奥にあるもう一つの池に行く。PHIMEANAKAS から BAPUON へ行き、さらにへろへろで車に戻る。明日はコンポントムに行くのでアンコールワットのそばにあるダンコール・アルチザンと言う職業学校がやっている店に行く。フランスが協力しているので衣料品やインテリアがよいセンスである。値段も高い。ここは品数が少ないのでシェムリアップにある本店に行く。ここにはとても大きく工場もある。財布を忘れたので、取っておいてもらい、明日取りに行く。PIT のオフィスにより、お土産の胡椒を買う。アンコールレストランへ行き、雷魚の煮物（甘辛で美味しい）、プラホック、焼きなすを食べる。我々がカンボジア観光をしている間に世界では大変なことになっていた。レストランのテレビで何回も津波の映像が流れている。インドネシアの大地震により津波が発生してインドネシアはもちろんタイ、ミャンマー、インド、スリランカなどで数万人が死んだそうだ。ホテルに戻りすぐに寝る。

12月31日

5時30分起床、6時30分朝食、クイティユ、サラダ、お粥を食べる。昨日今日は宿泊客があまりいない。8時に出発。今日は曇りでまず西バライへいく。ボートで西バライの小島へ向かう。15分ほどで着く。猫の額みたいな所に回廊の一部と楼門が残っている。その前にお土産物屋が3軒ある。そこで楽器を演奏している。岸に戻って AK YUM へ行くが、全く瓦礫の山で何も無い。TA PROHM へ行って驚いた。至る所を覆っていたスポンがなくなり、すっかり整備されている。昼なお暗くじめじめした迷路が、とても明るく全体がよくわかるようになっていた。西から見学して東に抜け TA KEO へ行く。THOMMANON と CHAO SAY TEVODA（修復中）を見て、西大門へ行き、北面の美しい四面仏を写す。最後の TA PROHM KEL はアンコールワットの隣にありジャヤヴァルマン7世の作った施療院である。ワットのまわりはすごい人

であるがここは誰も来ない。ダンコール・アルチザンに寄ってお土産物を受け取り、メグミさんに挨拶してロリュオスへ行く。アンコールワットとバイヨン、バンティアイスレイ、夕日のプノンバケンの人々の多さは想像以上であった。今回シムレアップには5日間いたが結局アンコールワットとバイヨンには行かなかった。まずはPREAH KOとLOLEIを見学して1時30分に国道6号線にある食堂でハウレン草とブタの炒めもの、チャーシューと腸詰め、牛のスープを注文する。とても美味しい。ビールを飲んで4人で5ドルである。国道にあるSPEAN PRAPTOSHの橋を車から降りて歩きながら写す。赤土のためホコリがひどい。PRASAT ANDETは国道から凸凹道を10分ほど走るとある。近代寺院の境内にあり保存状態はあまり良くない。PRASAT KUK ROKAは誰も知らず地元の人に聞くが解らない。ドライバーのリーが知人に電話したらすぐに解り、国道から細い道に入りどんどん行くと小学校がありその前に広場がある。そこにあった。傾いた砂岩の祠堂で、ここに8世紀から12世紀の楣が数点ある。小学校の美しい先生と話をして子供達と写真を撮る。KOMPONG THOMの町にあるSTUNG SEN ROYAL GRAND HOTELにチェックインする。とても広いホテルだが案の定お湯が出ない。7時に町のレストランへ行く。とても大きなレストランでバンドのステージとミラーボールがある。雷魚の唐揚げ、空芯菜の炒めもの、トムヤムクン(トリ)、フレッシュオレンジジュース、ビール、黒ビールすべてで12ドル、地方は安くて美味しい。ホテルに戻る。着いた翌日から手足がかゆい。腕だけで10カ所以上ぶつぶつがある。日増しに増えて行き足も腰もかゆい。妻も同じである。ダニか、ノミか、アリか、よくわからない。

1月1日

5時悪夢で目覚める、6時出発して昨日のレストランで朝食、クイティユと揚げパンを食べる。外は少し明るくなってきた。これからSAMBOR PREI KUKへ向かう。とてもひどい凸凹道で、まわりは水田が広がり砂糖椰子の彼方に美しい初日の出を見た。ひどい道で時々頭を天井にぶつける。30分ぐらい走ると道が分かれ、まっすぐ行くと7~8時間でプリアビヘールに着く。右に曲がるとSAMBOR PREI KUKで道が少し良くなる。途中UNTAC(国際連合カンボジア暫定統治機構)で亡くなったナカタアツヒロさんの父親が建てた小学校の前を通る。さらに30分位でSAMBOR PREI KUKに到着。まだ誰もいなくとても涼しい。写真で見た通り林の中にレンガの祠堂が点在している。駐車場の前のN群から見て行く。途中クロマーを売る子供が現れた。アンコールではしつこ

い物売りがいると思ったら、それほどでもなく、ア・テーと言うとすぐにやめる。ポーキーのカバンの中にはキャンディーが山ほど、煙草、ライターが入っており道案内の人、監視員、などに上手く渡す。案内の状態によってはチップを渡す。額が大きい時は私が渡す。C 群を見学していたら警察官がついてくる。遠い遺跡や解らない遺跡には警察官を乗せ案内してもらう。すべての遺跡を見るには車が無いと大変である。3 時間半も見学してしまった。戻る途中、先ほどの村によりナカタさんの学校に寄る。校庭にナカタさんの経歴が碑に彫ってあり読んでいたら涙があふれてきた。合掌。KOMPONG THOM から KOMPONG CHAM に向かう。KOMPONG CHAM の手前の町で昼食。ここは土蜘蛛で有名な町で、食堂に入るとすぐに売りにくる。生きている蜘蛛を体に這わせた女の人が二人しきりに買えと言う。土蜘蛛は大きく子供の手のひら位ある。ポーキーとドライバーのリーがそれぞれ 10 匹買う。もちろん生きていない揚げたものである。二人は美味しそうに食べる。そして私達に勧める。仕方が無いので食べたが体の部分は卵の黄身のような味で甘辛く味付けしてあるのでまずくはない。ビールのつまみには良いかもしれない。一匹 400 リエルである。豚肉のショウガ炒め、空芯菜の炒めもの、魚のスープ、アイスコーヒー、ビールで 7 ドルであった。KOMPONG CHAM には日本の援助で作った「きずな橋」と言うメコン川に架かる出来たばかりの橋がある。小泉首相も落成式に来たそうだ。目的地 HAN CHEI は橋を渡らず川沿いに上流へ行く。HAN CHEI までは 10km ほどであるがかつてない悪路で 10~20km しかスピードが出せず 1 時間近くかかる。右はメコン川左はカブ畑が続く。もう降りて歩こうかと思った頃、正面に小高い丘が見えてきた。そこが PHNOM HAN CHEI で頂上に見晴し台や大きな寺院があり人々の憩いの場となっている。ここからのメコンの流れが美しい。ここには 2 つの重要な祠堂がある。寺院の境内を探すが古いレンガの祠堂はあるが目的の祠堂が見つからない。早速ポーキーが子供を連れてきて写真を見せるとこの丘の下のメコン川の川岸にあると言うので急な階段を下りて川沿いに歩くと、写真と同じ祠堂が藪の中にあつた。どうしても見たい祠堂だったのでとてもうれしい。しかし重要なもう一つの祠堂が無い。また子供に聞くと上にあると言う。また急な階段を登り寺院へ戻る。子供が教えてくれたのは最初に見たレンガの祠堂だった。もうあきらめて帰ろうとした時、鉄柵で囲まれた小さな建物が目にとまった。遠くから見るとコンクリートで出来た四角い建物のようであるが近くに寄ると、砂岩で出来ており細かい文様が彫

刻されている。表に回ると入り口の上にアナンタ龍の上に横たわるヴィシユヌの楣があるではないか。皆で大喜びした。子供達にキャンディーをあげる。境内にとっても綺麗なお姉さんが作っているサトウキビジュースの屋台があったので皆で飲む。これが絶品である。その訳はサトウキビだけではなくオレンジジュースを加えているからであった。うんざりする道に戻り KOMPONGCHAM へ向かい「きずな橋」を渡り WAT NOKOR へ行く。ジャヤヴァルマン7世時代の仏教寺院で3重の周壁を持つ大きな寺院である。破風には仏教説話の彫刻が残っておりなかなか良い。西参道はヤシ並木になっている。今日は1月1日なので本堂で初詣をした。これから PHNOM PEN へ行く。KOMPONGCHAM をすぎるととても美しい夕日になった。まわりは一面水田で砂糖椰子がぼつぼつある中に夕日が沈む。特に美しい夕日を見るとセンチメンタルな気分になり自分がここにいる幸せを感じる。今日は初日の出も素晴らしく美しかった。PHNOM PEN に近くなると渋滞がひどくなり全く動かなくなる。この辺は郊外で左右に沢山レストランがあり、元旦は家族皆でレストランに行く習慣みたいだ。私たちもメコン川の水上市レストランへ入る。ここもビール戦争で、席に着くなりビール嬢が集まってくる。シンハ、タイガー、ハイネケン、もちろんバドワイザーなどラベルと同じ柄のミニのボディコンを着てプラスチックのカードを出す。そこでカードを集めていちまい引いたらタイガーであった。そうするとタイガー嬢がビールを持ってきてついでくれる。蛙の唐揚げ、エビと生胡椒の炒めもの、レンコンとシーフードのサラダ、鯉のスープ、どれも絶品であった。日本友好橋は渋滞している上に反対車線では事故で動かない。やっと JULIANA HOTEL にチェックインする。

1月2日

5時30分起床、6時30分朝食、buffetで種類は多いが、すべてまずい。妻の焼きそばは腐っていた。45分にロビーに行くと二人ともいた。今日は南の PHNOM DA へ行く。国道2号線を TA KEV に向かってまず NEANG KHMAU に寄る。近代寺院の境内にレンガの祠堂が2つ残っている。寺院からおじさんが出てきて扉の鍵を開けてくれた。この中にフレスコ画が残っているはずであるが、ポルポト時代に剥離されたそうだ。TA KEV の町は小さな町であるがなかなか雰囲気が良く、PHNOM PEN に泊まるよりこちらの方が良い。船着き場にはココヤシが並んで植えられビーチリゾートの様である。ここからスピードボートに乗るのであるが、ポーキーが運転手に囲まれパニックになっていた。

ボートは水田の中の水路を通過して 45 分で PHNOM DA につく。左右には水田で耕作している人や水路で魚を捕っている人、などとても不思議な景色の中をボートは進む。遠くに山が見えてきたが PHNOM DA ではなく、その後ろにある小さい山が PHNOM DA であった。船着き場から少し登るとどうしても見ておきたかった ASRAM MAHA ROSEI があった。とても不思議な建物で正確な建立時期は解らないが、少なくとも SAMBOR PREI KUK より前の時代である。それなのにレンガではなく石で建てられ、繞道もついている。形態は南インドのものに似ている。基壇や下部の縲り型、窓など相当高度である。この建築方法がその後どこにも受け継がれなくて、結局レンガの祠堂のままなのはなぜかととても疑問に思っていた。私の知っている限り同じ様な形態の寺院は昨日見学した HANCHEI だけである。石窟を見ながら頂上の PRASAT PHNOM DA へ行く。レンガ作りでチャンパの建築に酷似している。丘の上にぽつんとあるロケーションも似ている。TA KEV に戻り船着き場にある水上レストランで茹でた川エビを食べる予定であったが、先にきていた政府の高官の一家がすべて食べ尽くしてしまった。がっかりしてドジョウの唐揚げ、ブタの炒めもの、トムヤムクン、を食べる。イノシシも頼んだが固くて食べられなかった。この店のお姉さんは友達にとっても良く似ていた。ビール 2 本飲んで 12 ドルであった。PHNOM PEN に戻りながら遺跡を見て行く。PHNOM CHISSOR は国道から見える小山にあり、周囲には山が無いのですぐ解る。国道から 15 分ほど凸凹道を進むと駐車場がある。ここから頂上まで 300 段のきつい階段が続き、今まさに 2 時で一番暑い時間帯で日光を遮るものは何も無い。何とか頂上に着くとそこは見晴し台でとても良い景色である。寺院はその少し下にありラテライトの周壁で囲まれている。ここからは東参道の急な階段、第 1 楼門、第 2 楼門が彼方に見え、朝日や夕日は素晴らしいであろう。若い僧達と話をし、記念写真を撮る。ガイドの様なおじさんがポケットからサンスクリットと言ってハンカチのようなものを見せてすぐにしまってしまう。よく見せてもらうとお守りのようなもので面白いので 1 ドルで買う。ポーキーも 1 ドルで買ってしまふ。今度は違うおじさんがヤシに書いた昔話を売りにきたのでそれも 1 ドルで買う。帰りは東参道の階段を下りる。ドライバーのリーに電話して東側に来てもらう（便利になったものである）。第 2 楼門、第 1 楼門を見学して車に乗る。最後にバティの TA PROHM と YEAHPEAU に寄る。境内に入った瞬間蓮の売り子に囲まれる。入り口の地面に置いてある楯が面白い。地元のおじさんがついてきて私

と一緒に破風や楣をコンパクトカメラで写す。隣にある YEAHPEAU を見学して PHNOM PEN に戻る。一旦ホテルに戻り 7 時 30 分に夕食へ行く。PHNOM PEN 市場の角のレストランで、おかみさんが両手の指にぎっしりお札を挟んでいる。カニの胡椒炒め、イイダコの生胡椒炒め、フクロダケの炒めもの川エビのスープ、生ビールのピッチャー、で 12 ドルである。ホテルに帰る。

1 月 3 日

9 時に寝て 7 時に起床、8 時出発、ホテルの朝食はまずいので外で食べる。今日は KOMPONG SPEU の遺跡に行く。途中食堂で朝食、ついに朝、豚肉掛けご飯を食べる（絶品）。妻はクイティコを食べ皆でコーヒーを飲む。国道 4 号線はよく整備された道路であるが有料である。KOMPONG SPEU へ行く途中その有料化に反対するデモがあり全く通れなくなる。U ターンして迂回し凸凹道を走って遺跡のそばまで行くが誰も解らない。ついに KOMPONG SPEU の観光局へ行くがこの観光局を探すのに一苦労である。観光局の人に聞いても解らないとのことで PHNOM PEN にもどる。昼食は昨日の食堂でトリの唐揚げ、フクロダケとタコの炒めもの、ブロッコリーの葉の炒めもの、トリのスープを飲む。本屋に行ってもらい SAMBOR PREI KUK の本全 3 巻を買う。これはトヨタ財団がお金を出して行った研究で、シェムリアップにある遺跡保存事務局長ウン・ボーンさんがすべての遺跡の図面を書いている。トヨタ財団はチャンパの研究にもお金を出している。次にカンボジアシルクの店に行ってクッションカバーやバッグを買う。最後は国立博物館へ行く。そばのお店で空港で食べるフランスパンのサンドイッチを買い、アイスコーヒーを飲む。18 時 55 分発ホーチミン行きに乗るために空港へ行き、二人とお別れする。本当にご苦労さんでした。空港の中にダンコール・アルチザンのお店が出ていたのでジャヤヴァルマン 7 世のレプリカを 100 ドルで買う。重い。テーブルがあったのでフランスパンを食べる。たっぷりソーセージとハムが入っていてとてもおいしい。ホーチミンではトランジットはスムーズであったが、ハプニングがあった。時間があるのでフットマッサージをしてもらっていたら妻が呼び出しのアナウンスがあったと言って飛んできた。すぐにスリッパを履いてカウンターへ行くとスペシャルバウチャーをくれた。まわりに同じ券を持っている人がいたのでこれは何かと聞くと夕食のサービス券だと教えてくれた。フットマッサージを止めて待っているとタップに入ったビーフンとヨーグルトとお水をくれた。その後無事に成田へ。